

デタラメな『動力車新聞』！『千葉事務所』=実体は、 （10/3・第1300号記事）**「札つき革マル暴力分子のたまり場」**



79.10.8
No. 242

国鉄千葉動力車労働組合
千葉市要町二一八（動力車会館）
（鉄電）二五八・九（公衆電話）七二〇七

取場からはじき出されて消耗する スパイ 嶋田のただ一つの「心」の砦……

「本部」反動暴力分子たちは動力車新聞（No. 一三〇〇）および「千葉地本再建情報」（No. 1）をもって、「津田沼に千葉再建の橋頭堡」などと「千葉事務所」の設置を宣伝していますが「日刊動力車千葉」でいち早く器だけで実体のない「事務所開き」と「事務所」の真実が正しく暴露されてしまったが故に、「事務所開き」を「九月二六日」としたり（「再建情報」では九月二五日と「正しく」書いてある）、参加した千葉の組合員数を前段で「千葉の同志七〇人」、後段で「参加した二十数名の仲間」と書くなど、その驚きあわてている様子をそのまま紙面に反映させたものとなっています。

追いつめられた反動暴力分子

この動力車新聞（No. 一三〇〇）で明らかになっている問題点の**第一は**、「反動暴力分子がこの「事務所開き」をもって、「千葉再建」の「第二段階」「新たな出発点」と位置づけて、あたかも「千葉再建」が前進しているかのようなデマを必死にならざるを得ないことである。

しかし、動力千葉の全ての組合員が知っているように、四月二八日～五月一日の全国動員の段階では、書記長・青木がわざわざ銚子まで大金をもつてのり込み、「銚子、佐倉を中心に「再建地本」を作る」といきまいていたにもかかわらず動力千葉組合員の怒りの前に策動を粉碎され、「子供の使いじゃない」と当局に当り散らしたのを第一歩に、動力千葉破壊策動破壊の泥沼にコロがり込み、その破産をインペイし「もうすぐ再建できる」と

全国の組合員を引きまわしていたが故に、第三五回全国大会で革マルスパイ・嶋田と私利私欲に走った裏切り者を、それもたった七名を丸裸で登場させなければならぬところまで追い込まれ、全国大会以降は、スパイ・嶋田と裏切り者を「防衛」することにキュウキュウとしていたのが反動暴力分子の実態です。

「事務所」防衛でクタクタ

従って、彼等がここで「千葉事務所」なるものをデッチ上げなければならなくなった真の理由は、**第一に**、何か「景気づけ」をやらなければスパイ・嶋田も裏切り者も、そして「防衛隊」もまたなくなつたということ、**第二に**、全国大会後も全国の組合員に「千葉再建はもうすぐだ」とウソをついてきたことがバレないように時間かせぎをするという以外にないものではないことは誰が見てもはつきりしています。

こうして組合費をムダづかいし、良識ある組合員から「動力は千葉問題しか取り組まない。ツブれるのは動力千葉ではなく『本部』の方だ」という批判をされる動力とは一体何でしょう。

一〇年来の暴力分子・緒方、竹内

動力車新聞（No. 一三〇〇）で明らかになった問題点の**第二は**、「千葉専任特執」として、緒方（

東京）、竹内（新幹線）のゴリゴリの革マル分子が前面に出てきたということです。この二人、とりわけ緒方は、この十年來常に最先頭で暴力行為を行い、動力千葉の組合員に脅迫電話をかけたたりしてきた札つきの革マル暴力分子であり、この二人の登場と革マル迎合分子・今泉関東議長「千葉再建は関東地評が責任を持つ」という発言は、もう「金も全国動員も続かなくなった『本部』」が関東を中心とするゴリゴリの革マル分子だけで、暴力的動力千葉破壊を行い、デマとペテンを全国に流そうとしていることを示しています。

このことはすでに実行に移されており、現在千葉オルグに来ているのが、三〇才前後のゴリゴリの革マル分子と入社一～二年の「何もわからない」部分のみで、「千葉が暴力をふるった」というデマ情報を全国に送り、そのことに真実味をもたせるために「闘争第一号」に見られるような鉄労顔まけの申し入れを当局に行うなど反動暴力分子の本性はますます露骨に出されてきています。

「本部」反動暴力分子は「千葉事務所」をデッチ上げたが故に、今度は「事務所」を守るためにキュウキュウとしクタクタになっています。鉄の扉をつけ、タタミを運び込んで泊り込むだけでは安心できず、外へ出る時は五～一〇人で徒党を組み、深夜、通行人に検問まがいのことまでして隣近所のヒンシュクをかかっているのです。

こうして組合費をムダづかいし、良識ある組合員から「動力は千葉問題しか取り組まない。ツブれるのは動力千葉ではなく『本部』の方だ」という批判をされる動力とは一体何でしょう。

動力職場に真の労働運動を確立するために、一

四〇〇名の団結をさらに固め、動力大改革をかちとってゆこう。